常磐日日新聞

一月十四日　夕刊

日刊

定價　一部金五錢　一ヶ月金八拾錢

發行所　常磐毎日新聞社

印刷所　常磐毎日印刷株式會社

電話　六三〇番

印刷の御用は
常磐毎日印刷株式會社へ
電話六三〇番

奥羽及び北海道の 市長會議
四月櫻花の候を期し 平市に開催と決定す

第三十四回の奥羽、北海道の市長會議は本年米澤市が當番開催地であつた處種々の都合に依つて開催不能に陷り宙に迷つて居たが平市が最近に市制を實施した新興都市である處から是非市勢の狀況を詳細に視察したいとの意嚮が濃厚である爲め遂に開催地を平市と決定するに至つた、多分開催期は陽春四月櫻花の候を期して行はるべく同市にては此機會に專ら產業其他を廣く紹介する爲め既に着々準備に着手した

泉村の勞仕

泉村　國防婦人會では會長本多郡子さん、副會長江尻きよさん、鈴木きみさん等の指揮で活潑な活動を續けてゐるが昨秋來蝗取りや廢品を集めて得た金五十圓をこの程國防費に獻金した

同　鈴木光子

戰線の夫に 心配を掛けぬ
氣丈な銃後の母親

山田村字井上出身澤田嘉七一等兵は銃後の教育に意を注ぎこの程同村小學校へ金五圓を送つて來たが妻の寮子さん（三〇）は先妻の子ナミ子さん（一五）チエ子さん（一三）サト子さん（九）を實子の如く愛育してゐるばかりか戰線の夫に心配をかけたくないと同村の金山炭礦選炭婦に雇はれ早朝から夕刻まで眞黑になつて働いて居りこれこそ銃後の母として又妻として模範であると村內から賞讃されてゐる

赤井村で
青年校後援

赤井村の有志は同村青年學校教育の向上發達を援助、其趣旨を貫行貫徹せしめやうとこの程後援會を結成したが會長には村議で軍友會長の鈴木義晴氏が就任した

銀紙を獻納

平市田町「てかる堂」の娘さん達はお客さんから貰つて集めた銀紙五百匁を國防費の一部にして下さいと今十四日市役所を通じ獻金した

小川村葬

小川村　出身故佐藤末太郎、同植野長重兩上等兵の村葬は來る十六日午後一時から同村小學校で執行される

順調に進む
四倉漁港工事

總工費四十四萬圓を投じて先年築港を完成した四倉港へ入港漁船の激增に伴つて早くも船溜場の狹隘を告げるに至つたので縣當局では農林省補助ならびに地元寄附により昨年九月今面積二萬一千平方米におよぶ第二船溜、浚渫工事に着手したが人夫不足で悩みもなく目下順調な作業を續けてゐる

同工事は北側防波堤の延長ならびに全港內干潮面二米の浚渫で總工費十四萬圓明年三月までに完成の豫定であり、これが竣功の際は銚子臨釜間における唯一の避難港となるばかりでなく更に收容漁船の增大から水揚高も倍加される譯で同港の將來こそ水產福島のため少なからず期待されてゐる

柳內技術員の 退職に於て

小名濱支局通信

支局長　小野狂牛

十年一日の如く恪勤怠りなかつた町役場技術員柳內準平君は舊臘二十五日を以て愈々本町役場を退職する事となり新東亞建設の爲めに中華新政府入りと極まつた事が終に實現するに至つた

昨年夏の交本欄に於て町當局に向つて柳內君の待遇問題を提げて考慮を煩した次第であつたが、小野町長初め高木助役に於ても或は馬耳東風に聞き流した嫌ひがあつたが獨り收入役樋口君は記者の主張に耳を假し町長との對談の結果僅かに手當として月若干の增額を見るに至つた事を耳にしたが、之れはホンの鼻藥に過ぎざる輕微のもので眞の技術者を迎ふる待遇とは言へ得ない遺憾がある事を痛感するものである

言ふまでもなく柳內君は仙臺高工出身の俊毛で技術的手腕から見れば決して小名濱町の土木部位に燻る人物でないのであるが、小野町長の眞因からと小名濱出身たるの理由から薄給に甘じ踏進小名濱の土木事業の爲めに渾身の力を注ぐ可く覺悟を据へ既に十年に達せんとするのであつて町に取つては得難い至寶級のものであると云つて不可はない

殊に市制實施を目前に控へた本町としては道路の改修、上水道の布設、學校の增築等々技術者の手腕を待つもの擧げて數ふべからざる秋に當り如此至寶級の人材を失ふ事は本町に取つての一大損失で之を留任せしめ得ざる町當局は決して人事行政の上に上出來と云ふ譯けには行かぬと考へられる

今假りに相當なる技術者と言はずとしても適當の人材を傭ふとせば事務者と同日の談に於て可とする事は出來ぬ況んや高等教育を受けたるものに於ておやである、然し今は既に遲い柳內君の決心は上水道布設の議が決言された時にあつた、そして今は一日も猶豫の出來ない急を告ぐる時となつたので、君を迎ふる新天地には兩手を擧げて歡迎して居る、只此場合君の健康を祈り中華の天地に活躍する壯圖を祝する爲めに一言を寄與する次第である

書道の登龍門に 入賞の榮冠兒童
平市の誇りとして 天晴れ淸薰を放つ

書道の登龍門と唱せられる泰東書道院の書道展は去る八日から十八日まで上野公園東京府美術館及び日本美術協會に於て開催中で平市からの入選兒童は既記の如く頗る多數に上り優秀な成績を示し淸薰を放つたが審査の結果天晴れ入賞の榮冠を擔つた、兒童は左記の如くである

△常磐書道研究會（東日大每賞）第一校尋一菊地淳　同志賀昭美　第二尋四齋藤英子　浪江同山村行夫（泰東書道院賞）第二尋四宮川幸子　同谷口カズ子　第三尋一吉田美智子（褒狀）第一尋四廣川晴一　第二尋一山崎弘子　同尋二宮川尙子　同尋三小野武子　同尋四服部桂子　同佐々木尾子　第三尋四川又常治　第二尋五齋藤キヨ子　同三井正子　浪江尋四佐藤淸司　磐女宮川芳子　同三井敬子　同佐川行

△平第三校書道研究會（東日大每賞）尋五田口光男　尋四諸橋政良　尋三佐々木靜子　同鎌田俊子（泰東書道院賞）尋四伊藤貞子　尋三鈴木圭子（褒狀）尋六相澤喜代子　同根本和子　同荒木顯子　尋五田坂喜康　同鈴木和子　尋四吉田賢夫　同鈴木七郞　同根本祐太郞　同新妻貞子　同吉田綾子

納稅の獎勵金が 積て一千三百圓
高久の納稅組合が 大喜で主婦を表彰

高久村の馬場部落納稅組合では昨年中役場から交附された獎勵金や剩餘金を積立たところ積り積つて一千三百四十圓になつたので組合では大喜び、是れも各家庭の主婦の力によつての事とこの程國防色の文化コート枚宛を贈り表彰した

自轉車の番號札を 物資節約から廢止
平署で返納を受付 買却して國防費に獻金

自轉車の記號番號は警察事務の簡易化と物資節約のため廢止されることになつた、なほ從來使用してゐた番號札も不要となり取りはづすことになつたので平署では目下これを返納せしめてゐるが、こ集つたものは賣却して國防費に獻金するが管內だけでも相當な金額になるだらうと見られてゐる

愛馬が身代り
澤田一等兵の武勳談

植田町字仁井田出身本多部隊騎兵一等兵澤田龍照君は昨年十月十六日軒構鎭の掃戰で戰傷、再び第一線に出動活躍中であつたが突然○○歸還し家人を喜ばせた、次は澤田君の武勳談である

天津、張北、張家口、宣化等の敵を攻略して十一月九日遂に太原城に入城しましたが、軍司令官から感狀を頂いた張家口進擊戰などは一平均一里の進軍といふ困難な進擊を十日も續けたのです、この戰鬪で馬八頭戰友三名の戰傷を出しました私が戰傷したのは軒構鎭の山岳戰で十月十六日午前二時頃部下二名と共に尖兵隊へ傳令を終つての歸途敵の襲擊をうけた、私は迫擊砲の破片を顏面にうけまた着てゐた外套が燃えて正に火だるまになるところでした、この時愛馬は私の身代りとなつて戰死をしました、一ヶ月間野戰病院で療養して、まだ顏面の繃帶がとれぬうち軍醫殿に願つて再び第一線に出動しました、決死的な斥候隊として前後九回敵に深く偵察に出かけましたが死線を超えたことも再三でした

毆打して逃走
―行方を晦ましたが捕る―

岩手縣釜石、平田町生れ住居不定元西村犯人佐々木仁右衞（　）は去る三日夜小川總屋旅館で飲酒中居合はした郡山市人町二町目山羊商・久保彌一（三六）と些細いことから口論の末頭部其他毆打全治二週間の傷を負はせ姿を晦ましてゐたが昨夜・井・坪內を徘徊中平署員に檢擧された、尙同人は病氣や心配ごとで苦しんでゐる家をかぎつけては押しかけ尤もらしい顏でこれは庭に、

刀劍の鑑定會が
都合で廿八日に延期

既報―刀劍の國に拍車をかけるべく來る十七日平市に開催される筈であつた刀劍鑑定會は都合により二十八日に變更された尙鑑定家としては在鄕軍人分會篠田中將、事業部長田邊將、日本刀鍛鍊會幹事倉田海軍大佐の三氏が來平する筈

書初展入賞
平第二小學校

（尋二）國府田フジ　白土萬里　千佐竹　永子　柏原サト子　中野サイ　菅野和子　横山英子　田谷町子　山崎弘子　長谷川和子　關內由子　高野敏子　伊藤芳子　安齋琴子　瀨下信子　橋本イク　庄司靜子　村田元子　松崎理智子　鈴木美代　菊地和子　櫻村かをり　渡邊繁子　横幕淑子　篠原みゆき　大原英子　渡邊翠子　舍我恒子　小野碁子　增田智津子　大村藤子　淺川浩子　庭山政子　熊敦子　原長子　山森和子　山澤福子　星野富美　神長倉紀子（尋二）大嶺陽子　宮川尙子　柏原フジ子　田卷佳代子　高橋とし子　吉田トシ子　藤井和子　高橋榮子　赤木敦子　大谷瑛子　丸山千江　青木千芳　太田靜子　石坂敦子　齋藤敏子　白土京子　鈴木キミコ　卜部英子　海老原エイ　吉田佐惠子　横山トミコ　塙光子　小野榮子　齋藤トム　吉田和子　吉井まさ子　池田弘子　大庭マサコ　鍜冶美英子　西脇アイコ　齋藤惠子　鈴木キミ一　尾崎嘉子　岡田郁枝　高野由子　叶多喜子　鈴木和子　村上郁子　飯島榮子（尋三）高木信子　佐藤二三子　高野美津子　木村アケ子　落田芳子　大谷久仁子　市原和子　高木祐子　安齋惠美子　永島ミツイ　山木ノブコ　鈴木都　阿部佳子　小野武子　原光代　蓮沼祐子　富岡千津子　佐藤禮子　作山マサコ　篠崎禮子　芹澤美佐子　國府田ケイ　鈴木かよ子　武田千枝子　作山ルリコ　渡邊郁子　箕輪久子　佐久間マサ　齋藤リエコ　丸山愛子　山田文子　岩立サタ子　山崎美知子　藤井登貴子　宍井美子　笹目八重子　木田トシコ　吉田千枝子（尋四）齋藤玲子　宮川幸子　大平友子　近藤ミサ　大村仁美　齋藤英子　大庭幸子　齋藤貞子　安齋照子　服部桂子　長谷川キイコ　近藤保子　荒川アサコ　金子シメ子　小齋春子　小野郁子　大間敏子　谷口靜子　下山田方子　石川美子　佐々木辰子　遠藤ミヤコ　福島トミ　內田元子　片寄隆子　阿部美子　菅野シゲ　藤田耀子　眞木貞子　市原惠子　塙和子　關內美佐子　鈴木愛子　根本知　瓜田けい　大谷淸子（尋五）高田玉惠　三井正子　桐原純子　蛭田伸子　井坂幸子　內藏富枝　高橋茂子　安藤敏子　上坂玲子　阿部由奈子　佐藤千代子　吉原禎子　浦英子　中根和子　關內陽子　渡邊マサコ　小谷ワカコ　靑木莫　藤居美津子　大谷郁子　鈴木ユチロ　草野キンコ　金子喜代子　笹山昭子　齋藤美枝子　横山ケイ　志賀靜子　篠原靜美子　原貴美　石川信子　田卷嬌子　高木日左子　小松久子　酒井友子　白土セイ　吉田昭子　菊地昭子　石田カツ子（尋六）鈴木悅子　坂本雅子　草野トシ子　佐々木雛子　海野和子　高橋由子　佐川靜子　八幡テル子　高野靜枝　磯上照代　森本春子　鹽坂幸子　木村ヒデ　青天目昭子　小原喜惠子　鈴木千惠子　猪狩敏子　海老根京子　八代茂子　山本タカ子　塙信子　涌井千枝子　山野邊繁子　增子ミネ　大谷郁子　福島イク　星野民　佐藤玉江　佐々木稚子　中村里子　野村愛子　八卷久美子　關內喜代子　田名網キヨ　井上節子　桑山康子　眞野八重　堀江和子　佐藤文子　神馬スイコ　齋藤律子　市原貞子（高一）廣邊義子　大間喜子　三輪美智子　矢部美代子　鈴木定子　深谷トシ子　淸野月小夜　小菅友枝　富岡喜代子　伴キヌ　加藤豐子　大野芳江　布施敏子　鈴木律子　丹野幸子　山野キ邊ミ　小齋峰子　村田伊子　渡邊久子　志賀たまゑ　木下喜代子　鈴木トシ子　高橋せつ子　白土ミエ子　中根滿子　菅野ヒデ子　河田雅子　西郡京子　持丸シマ子　吉田孝子　渡邊久美　馬上童子　松崎ミツ子　內藏悅子　殿塚むつ子　新妻愛子　安積英子（高二）和田喜枝子　木田宮子　大岩チヨ子　新井新江　田口賴　中川信子　生田目榮子　吉田イネ子　那須キミ　小川トヨコ　荒木美智子　福本文子　鹽幸子　櫻本ユキ子　伊藤ミヨ子　本間トミ子　作山淸子　綠川此奈子　木下良子　丹野アイ　小齋ヨネ　荒川弘子　秋川今朝子　山本むん　伊達美子　國井正子　櫻井榮子

母房儀病氣中の處一月四日午前四時三十五分死去仕候間此段御通知申上候

追て告別式の儀は來る一月十六日正午より一時迄の間自宅に於て神式により執行可仕候

昭和十四年一月十三日

福島縣平市紺屋町三五

嗣子　吉田久雄

親戚　比佐昌平

千葉英

竹內一義

佐藤權

ラヂオ　JOK

今晩の部

▽後六、〇〇　子供の時間　連續童話劇「ほがらか部隊」若草こども會

▽後六、二五　講演「我國に於ける金屬研究の水準」理學博士佐藤淸吉

▽後七、三〇　國民歌謠「日の出島」

▽後八、三五　現代日本の詩歌

▽後九、〇五　講演「東亞新秩序建設の意義」蠟山政道

明日の部

▽前九、三〇　子供の時間　子供の音樂會

▽後〇、〇五　室內樂

▽後一、二〇　支那事變回顧の午後

▽後三、四〇　東北スケート選手權大會

▽後四、二〇　大相撲春場所實況（四日目）兩國國技館より中繼

▽後六、〇〇　ラヂオドラマ　江川宇禮雄外

▽後八、〇〇　東西寄席中繼　漫才（わらはし慰問日記）玉松一郎、ミスワカナケ、橫山エンタツ二人漫談（親の子杉浦エノケン

平市人事

回出生

△小太郎町三七園部正緻氏三男圭佑君

△胡摩澤一二二古川太一氏五女多惠子さん

△白銀町九藤島捨雄氏三男秀明君

△鍛冶町二五入江操氏四男正弘君

回婚姻

△玉川村大字岡小名字岸三五丹野勝海氏（三七）仲間町五三永山繁子さん（二九）

愛憎二重奏
吉川英治作
瀧[illegible]方畫

女客　十

……（160）……

土方が偸快らしく、[illegible]に突ひ出したものだから、今までの息づまるやうな、[illegible]ぐるしい[illegible]張は[illegible]然として打ち消される。

おしんの[illegible]には、少しばかりだが、[illegible]抗的な[illegible]笑的の光が認められた。

「土方さん、貴方に[illegible]が[illegible]いのね」

と、冷やかな[illegible]だつた。

「どうしてだ」

「だつて、[illegible]面目になつて、[illegible]方をからかふなんて、貴方にも[illegible]合はないことよ」

「何にも、[illegible]はからかつたのぢやないよ」

「それぢや、どうしたんです」

「どうしないちやないか、つまりお[illegible]が、[illegible]手に[illegible]しだのぢやないか」

「さう、大[illegible]ね」

ツンとして、おしんは[illegible]の方を見入つたが、既に[illegible]破されて[illegible]の[illegible]が、[illegible]のもやのなかで、[illegible]をくすべたやうに、けむつてゐる。

「さう、怒るな、[illegible]の[illegible]みといふのは、ナトむづかしい。君を口説き落したり、友人にほれてゐる女を[illegible]取りしやうとするそんな、タフな[illegible]へからぢやないのだよ」

「さう、さうだとは[illegible]めから[illegible]察は申してゐましたよ」

おしんの言葉は、勿論[illegible]な[illegible]きは[illegible]つてはゐなかつた。[illegible]手に[illegible]する[illegible]的な冷[illegible]の代りに、[illegible]と[illegible]とした[illegible]の[illegible]を[illegible]めて、[illegible]然と自ら[illegible]しとしたのである。

「さういはないでくれ、[illegible]だつて[illegible]の[illegible]を[illegible]らない人間ではなし、[illegible]見大[illegible]の、[illegible]のある人間も君によつて、あゝした[illegible]に[illegible]つたのだ。友人として

[illegible]に[illegible]に、もするぢやないか」

「さうです、[illegible]が[illegible]い[illegible]」

「それ[illegible]たまへ、[illegible]が[illegible]して[illegible]て、それで[illegible]の一[illegible]を[illegible]に[illegible]らせるなんて、少[illegible]へた[illegible]がいゝと思ふね」

「その[illegible]でしたら、[illegible]も[illegible]はして居りますよ」

「[illegible]をしながら、どうに[illegible]ないといふのだね」

「エ、この道ばかりは、さふ貴方だつて[illegible]じでせう」

「[illegible]は、まだそれ[illegible]れられたことはなかつたか」

「まア―[illegible]下[illegible]の[illegible]と申しますよ」

「[illegible]くだよ」

「オホ、、[illegible]方[illegible]の[illegible]へ、それで[illegible]て、[illegible]らしくて、それでなければ、女の[illegible]でせう[illegible]るんでせう」

「さう[illegible]めるな、ほめるとに[illegible]くさすと同じ結果になる[illegible]ある」

「それでは、ウンと[illegible]を[illegible]ませうか」

「まア、[illegible]をからかつて、[illegible]う、[illegible]がなくなると、[illegible]甲斐がなくなる」

「ホ、、、」

「それよりも、[illegible]の一[illegible]つ、[illegible]の[illegible]みを聞いてくれ[illegible]」

「何です」

「一寸、[illegible]を[illegible]する大[illegible]さ」

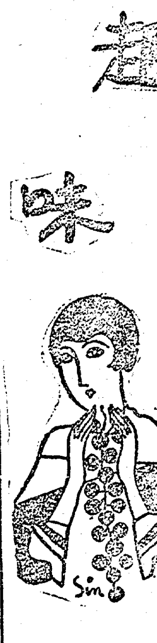
「大[illegible]とは」

「國家のために、[illegible]の命を[illegible]たいといふ[illegible]だよ」

おしんは[illegible]つて土方の[illegible]つめたまゝであつた。

「[illegible]の命！」

と、云つたまゝ、[illegible]つて[illegible]方の[illegible]を[illegible]めたまゝ[illegible]が彼は微笑したまゝ女の[illegible]てゐる。



ゾロッとした洋裝排撃

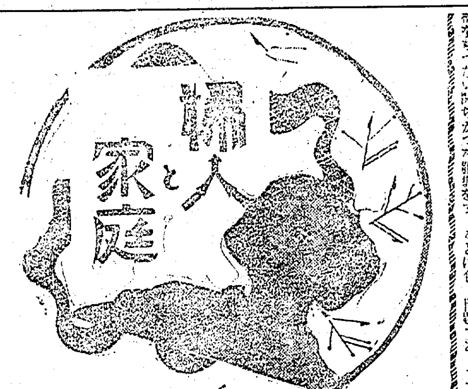
桐馬　とみ

洋裝家の立場から私は街を歩く御婦人の洋裝が特に目につきます。近頃大變へりましたがそれでもまだ繁華街などではよく見かけて不愉快に思ふことですがそれは夜會服のやうに、その長いゾロッとした洋裝をして、バスや電車に乗つたり、或は街を歩いてゐる婦人を見かけることです。

この非常時にさうした場所柄を考へない間ちがつた服裝をする方があるのである一部の方々から洋服はぜい澤なものだと云つてけなされるではないでせうか。一般の方々になるほど洋裝は輕快でよいものだといふ認識を持つて頂くのには、簡素で實用的のものでなくてはなりません。

それには和服の廢品でもスフでも何でも結構ですから。型をスポーテクにすることです、それから働く婦人には和服より洋裝の方が便利だと仰有つて、大半は洋服をお召しになつていらつしやいますが、此の場合注意して欲しいことは色の問題であります、戰時下に於きましては、あまり複雜な配色はお避けになつた方がよいと思ひます

しかしこの頃國防色が取り入れられてゐますがあれは戰場でもない街を歩く時にはあまり感心出來ません、非常時だからと云つて婦人服の型までが軍服にとらはれる必要はないと思ひます、ほんとに非常時を認識して居るのでしたら、この際は廢物の再生若しくは布地の節約などを考慮にお入れになつて、御研究なさる事をお勸めします（桐馬とみ氏はカネボー洋裝部主任）



赤ちゃんの抱き方

上下にゆすぶるな

生後間もない赤ちゃんは、まだ身體がしつかりとかたまりませんから、成るべく抱かないで寢かせて置く方がよいのです。若し抱く時には赤ちゃんの**首ゝ肩**を手でしつかり支へて、横抱きにします。首がしつかりしない内に縦に抱くのはいけません。

又抱いて強く揺ぶつたり、特に上下に揺ぶるのは禁物です。生れて間もない赤ちゃんや、病弱な赤ちゃんは、負ふ事は絶對に避けなければなりません。無理に背負ふと首がだらりと折れさうにな[illegible]**胸や腹**を壓迫するので乳を吐かせたり背骨を彎曲させたり足部を強く縛る爲め足の發育を妨げたり、種々な弊害が生じるからです。止むを得ずおぶふ場合は、背負ひ紐の幅を一杯に擴げてこれで赤ちゃんのお尻を支へ包むやうにし無理のないやう、しかもゆるすぎて抜け出したり、ひつくり返しにならぬ樣に注意して頂ふ事です。

秋から冬にかけては、ねんねこ袢纏で背負ふとあたゝかでよいのですが、背中で子供が汗ばんでゐる際に時には、下してから急に冷して風邪を引かせない樣注意がいります。」

さすがスイス

耳で聞く時計

スイスでは近頃、見るのでなくて聞く時計が發明された。これは文字板も指針も見えない長方形の置物で、時間が知りたい時にはいつでもスヰッチをひねると美しい聲で「只今何時何分でございます」と放送すが時計の本場だけある

白いのが衞生的

風邪豫防のマスク

冬のつめたい空氣を直接口や鼻から吸收しますと、呼吸器官の粘膜を刺戟し炎症をひどくして、病氣のある人はそのために**病氣**を重らせたりセキが出たりします、かうしたことは健康な人でも時に經驗するのですから、その爲にはマスクをかければ安全なわけです

マスクをかけて外出しますと、マスクによつて冷たい外氣が温められますし、街頭の埃や或る種の病菌も多少濾過することができるのです、でマスクの効果を一口にいひますと、一面疾病の豫防になり、他面病氣の傳播を防止するといふことができませう

[illegible]中、呼吸器病者、つまり[illegible]的な結核患者には、公衆衞生上から是非共マスクをかける必要があります、たとへ[illegible]時には[illegible]ためにマスクを常用すること[illegible]でせう、然し[illegible]マスクをかけてをることは[illegible]くないことです

マスクはどんなのが一番よいかと申しますと、マスクに脱脂綿を入れ、その上にガーゼを當てなければいけません。脱脂綿はマスクの中に含ませる必要はありませんが、ガーゼ脱脂綿は毎日取替へることが大切で、それを怠りますとマスクの効果も半減してしまひます

マスクの色は、黒いと汚れ目が見えないために、つい**不衞**生になり勝ちですから、白いマスクが最も衞生的でせう、理想的なのはセルロイドのものですが……

これから支那方面に行く人たちは多いでせうが、あちらは塵埃が多く外部の空氣の濕度が著るしく乾いてゐますから、マスクは不可缺の日用品として忘れてはならないのです（糸川欽也博士談）

どん〱上る衣服費！

簡素を理想に

[illegible]經濟的に考へると同時に美的にも考へなくてはならないと思ひます、[illegible]に見ますと、昭和十二年の統計ですが**收入**に對する衣服費は給料[illegible]一割、俸給者は約八分、勞働者は約六分と農民のみ（昭和二年）となつてゐます、之を見ても經濟的には收入の七分で儘はないと思ひます

また昨年七月に比較すると、食料品などは僅かですが、衣服は[illegible]、最も顯著の[illegible]ですから、日常生活に[illegible]を來してゐるのではないでせうか、そこで衣服の經濟問題を考へなくてはなりません

またスフ工場なども、衣料として**適當な**ものを作るといふ所までいつてゐない、だからこの際自分にも好みを入れ、製造と消費と[illegible]ものを作り出す必要がある

第一段に形式の問題ですが、[illegible]、[illegible]、諸種の三つが必要であるが、之が日本人の[illegible]原則です

次ぎに女子の作業服の問題ですが農村婦人の服裝の第一歩としては上衣、スカート、帽子、[illegible]足袋、第二段としては帽子、前掛、手甲、ズロース、このやうに揃へると三圓から三十九圓といふ開きがあります

冬の作業着の必需品は四圓から二十五圓、冬の**普通着**は十四圓から九十四圓、又農村男子の作業着は一圓から三圓、夏の外出着は三圓から廿六圓、男の冬の作業着は五圓から十圓、冬の外出着は十四圓から四十八圓

この作業着といふのは洋服式のものが自然にひろまつてゐるが、危險防止、能率増進の方から言つても結構です、只ふだん着は和服に限ります　從つてこの階級の開きに服をつけることが必要ですし、更に着物の着方取扱ひの指導も肝要です

要するに理想としては簡素がよいと思ひます、その意味は粗末ではなく更に高い文化に進むことを前提とし、精神生活の充實を現すやうなものです、しかもこれには、凡ゆる[illegible]を包容して、渾然一體としたものがよいと思ひます、形式の統一には反對です

更に一歩進めて樣式ですが之は規定する必要があると思ひます、例へば制服を必要とする職業などには勿論必要でありませう、最後に最近制定せられた**儀禮章**ですが、從來の禮服、喪服の他に貧しいお方をお迎へする場合などつける徽章が設けてもらひ度いと皆ふ希望が地方にありました

また勞働力の不足、婦人の職業生産に當る服裝は作業服の改造こそ時局對策の大眼目です、方々で作業服も考案され漸く統一の緒についてゐるから、之に彌力適切なるリードをせねばならぬと思ひます

鷄をだまして卵を産ます法

眞夜中に鷄をたゝき起して卵を生ませるといふ、人間に應用したらすぐ大きな社會問題になりさうな方法を用ひて儲けてゐる百姓がある

×　×

この方法といふのは夜中に強い一燈の光を鷄舍に照らし、鷄に夜が明けたと思ひ込ませ、そして卵を生ませるといふのだが、或る農場で實施してゐる方法を説明すると

この農場の鷄舍には時計仕掛の自動[illegible]、[illegible]は午前三時になるとぱッと點燈して鷄舍の内を煌々と照らす。この強い電氣の光にだまされて鷄は早速「とき」を告げるし、他の方は卵を產む準備にかゝる

×　×

餌を自動的に與へられることになつてゐるから[illegible]起きてくる鷄もない、鷄にはお氣の毒な次第ではあるが、にこの方法で非常な利益を擧げてゐる農夫がゐるといふ、殊に夜がながく、又卵價の高い冬にはこの方法は大變有利であるとか（シドニー發[illegible]）

美容秘帳

洗髮の心得

◇…洗髮の衞生といへば大ていの方が洗髮を考へませう。たしかに洗髮は頭髮衞生上でも一番大切なことです。しかしこの洗髮の前に是非實行していたゞきたいことがあります

◇まづ頭皮を刺戟して血行をさかんにしませう、それには片手で一束の毛を[illegible]し強くつまみ、上げるやうにしながらマッサージするのです、かうして全體をまんべんなく刺戟してしまつたらオリーブ油か椿油を[illegible]こみます

◇…つぎにはタオルをあつくしぼつて蒸し[illegible]、これを二三回くりかへします、それがすんでから、フケのなくなり[illegible]

落葉を集めて

腐葉土を作りませう

△……鉢々の植木や盆栽類には腐葉土はなくてはならないものです、落葉の多い今時分にあつめて作つて置くと大變重寶します

△……まづ落葉をあつめて一斗の水に石灰五合の割合に溶かして、落葉が濕る位にふりかけ、又[illegible]を落葉十貫につき五升ほどふりかけてよくかきまぜ、踏みかためて全體にコモをかぶせておきます

△……二、三日すると發酵して高い熱があらはれ水蒸氣が立ちのぼるので堆積物が乾いて參りますから一度切崩して水をうち、またもとのやうに踏固めます、その後數日すると再び發酵し始めますから、今度は一斗の水に[illegible]の割合にといて撒き、かきまぜて積み直します、斯樣にして數回繰返しては水を撒き、約二ケ月經ちますと[illegible]が出來ますから、その時篩土一斗に對し油粕一升の割合のものを混ぜて貯へておきます、その後は[illegible]

刺繍入りの半衿

揮發洗濯法

刺繍入りの半衿や帯締は水洗ひしますと糸が縮りしたり、色が流れたり、固くなつたりし易いから揮發洗濯が安全です。

揮發洗濯の方法は先づ一合餘りの揮發油を取り、これに少量の揮發石鹸を溶かし、この中へ汚れた半衿や帯締を入れ、輕く振洗ひします。半衿の中で金糸銀糸の入つてゐるものは強く揉むと糸があれますから先に輕くなでつけて洗ひます。

汚れの落ち難い部分はクリーム狀の揮發石鹸を付けて揉み、汚れが落ちましたなら再び新らしい揮發油をとり、ここで丁寧にゆすいで石鹸分をとり、蔭にかけてかわかします。

ベンジンソープは市販の物もありますが家庭で之を造るには、オレイン酸（藥局に在り）を三分ノ一、下のアンモニア水を加へて、かき混ぜ、容易に出來ます。ベンジンソープは揮發洗濯の時手輕に利用されるものです。（[illegible]）

古漬けの福神漬

廢物の利用

◇…漬物樽の底にゴロ〱轉つてゐる古漬は、そのまゝ捨てゝしまふのは勿體ない[illegible]、細く刻んで鹽出しをよく搾つて醬油をかけて、カクヤにして食べるとおいしいですが、福神漬にしてもおいしく頂けます。

◇…先づ古漬を出して水洗ひし適宜に切つて鹽をぬき水を搾ります、他方福神漬の汁をしぼつた古漬一貫目に對し醬油一升二合、味醂二合、砂糖十五匁で作り一度煮立てゝ冷し、この中に古漬をバラ〱にほぐして漬け込みます。

◇…食べ頃は、すぐに引上げてもよろしいが、四、五日すると丁度い〻加減に漬かります。節約時代の家庭でも節約料理のお菜として何卒お作り下さいませ（[illegible]談）

祖國

堀　健吉作
曽野奎三畫

・・三八・・

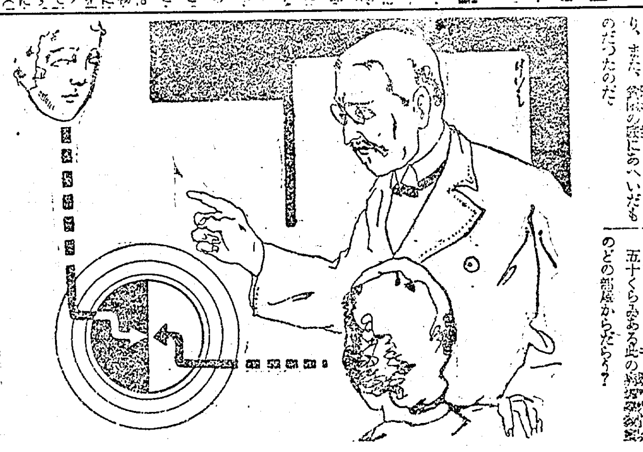
大學祭　四

入木教授は右手の窓硝子をあけ、窓をよぢのぼり、部屋にとび込んだ。

そこは解剖學の標本室になつてゐた。

窓際をながめてゐる頭蓋骨や腰骨や、きり取られた骨や、えぐり出された病的臟器の心臟や、それから、[illegible]や、どすぐろい肺臟や、ありとあらゆる人間の内臟、骨格、そんなものがあたかも[illegible]とした廢墟の[illegible]を物語るやうだつた。

これらの、どれもが嘗つては生きた人間のものであり、數奇をくりかへしたかなしい運命を背おつた人々のものであり、それからまた、恐怖の陰翳をたくらんだものであり、また、恐怖の底にあへいだものだつたのだ



この部屋にあふれた空氣は、何とそらぞらしくつめたいむなしい風がふいてゐることよ！　冷氣が彼の頭をなでて行くやうだつた。

この室に滿ちた標本を製作し、或ひは助手達に製作の指圖をした[illegible]教授は、いはゞ神樣であり、まさしく人間の死、或ひは生といふものに對してほとんど無感動的な感情をもつてゐるのではあるまいか。

彼はこの人間の[illegible]な空氣が慄然としてゐるのを見た。

足音をたてぬやうに靜かに、うしろの窓をしめ、標本室を横切つて廊下の方へ出た。

すると、廊下につゞく扉がしまつてゐた。彼はもう一度廊下に面した硝子戸をあけて、とびこえて廊下へ出た。

廊下へ出ると、今日は大學祭なので、研究に從事してゐる助手達の[illegible]をいぢる音もなく、ことりとも音がしない。

時々、窓をゆすぶる風の音が、ことりとするばかり、しいんとしてゐる。

異樣な人間の臭氣がつたはつて來るので、廊下につき當つた部屋を見ると、そこが[illegible]だつた。

手足を切りはなされた人間の死體が、部屋の中央の解剖臺の上に、白布もかけられず仰向けにころがつて寢かされてゐた。

これに何といふ氣味惡い光景だらう！　彼は、この時、廊下をはしる一つの跫音をきいた。

それは女の跫音だつた。恐怖にみちた跫音だつた。

はつと彼はくびすをかへし、體を壁によせ、かまへる姿勢をとり耳をすました。

その跫音は、ふつとたち切れそのまゝ[illegible]の廣い建物はしんとしづまりかへつた。

どの部屋からだらう？

五十くらゐある此の解剖學教室のどの部屋からだらう？

この時、跫音が聞へて來たその方角から、から〱と笑ふ聲が聞へた。

その笑聲も、もの三十秒もつゞいたとおもふと、ふつととだえ、またもとのしんとした建物にかへつた。

おそらく大學祭の方は、大盛況の餘興でもはじまつてゐるのだらう、あそこは華やかさとにぎやかさにつゝまれ、同じ構内の此處は恐怖にみちてゐるのだ

間もなく、とか〱と廊下を遠る跫音、それを追つかけるやうな跫音がつゞいた。

入木教授はとつさの思ひつきから、足音をかくすために、手足をすくめて廊下にあふむけざまにたふれるなり、廊下をごろ〱ところがりはじめた。

彼が埃まみれになつて廊下を[illegible]までころがつて來ると、彼はもはやもどかしくなり、四つんばいになつて廊下の角をまがり、ものゝ四五十間もの間、腹ばいになつたまゝ歩いて行つた。

吸入用酸素　39%純度

度量衡
モノサシ　マス　ハカリ
計量器
體温計　寒暖計
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
寫眞材料一式販賣致シマス
關内藥局　電話四〇番

（病室完備）
（入院隨時）
產科
婦人科
根本醫院
平市南町五二
根本莊次郎
根本貞雄
【電話四三番】

花柳病科外科
木村外科醫院
平市六丁目橋際　電話三〇九

國旗と提灯
[illegible]

鈴木醫院
平市田町
電話五八番

（夜間診療）
胃腸[illegible]
内科
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科
專門
松村醫院　胃腸　性病
平市南町（電話一〇七番）

メガネは！
玉屋
平市二丁目

三井タクシー
平二　電話六八五番

御婚禮御着附
パーマネントウェーブ
和洋結髪
オゾン美顔術
御染髪洗毛
御爪美術
平市驛前
水野化粧院
電話六七八（營業所）
五二五（自宅）

國策の線を行く
鐵管の代用品
エタニットパイプ
D級
B級

	十尺モノ一本單價（水壓二五〇ポンド）	ギボルトジョイント（ツギ手）
二吋	三・五四円	二・一〇円
三〃	五・二三	二・五四
四〃	五・五九	三・七八
六〃	一二・一七	五・五六

鐵材　金物　工具
山田文一商店
平市仲町通り
電話二六二番

◎診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、繼續架工科
齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
平市田町（松月堂向ヒ）
中野齒科醫院
電話五〇九番
院長　日本齒科醫學士　中野憲次
日大齒科醫學士　鹽谷伍郎
補綴部主任　佐藤重義

シモヤケ家傳藥
是までシモヤケは暖かくならねば治らぬものと諦めて居つたのが一日二、三回の御使用でクヅレたシモヤケも忘れたやうに完全に治ります。
現今の塗藥は異つた巻法により根本から除去するものであります。シモヤケは寒さの爲になるもので塗藥では決して治るものではありません又クヅレタシモヤケに塗藥では塗布と同時に痛みを感じたりカユミを增したり致しますが此藥は無刺戟の中に心地良い巻法により皮下の血行を良くし幼きお子樣方にも喜ばれて如何にクヅレたシモヤケでも完全に治る事保證致します。
（定價三十五錢）
東京市丸井邦寶堂
福島茨城兩縣特約販賣
伊藤石炭店
平市一丁目　電話三四九番

高久病院
院長　醫學士　高久忠
副院長　新潟醫學士　赤羽清
藥局長　藥劑師　佐竹菊雄
内科小兒科　外科花柳病科　耳鼻咽喉科
平市田町　電話五一三番
—◎看護婦至急募集—

フケで頭の痒ゆい方に……
三共のサボイド石鹸の御使用をおすゝめ致します。
本石鹸は最上の原料により製せられた硫黄コロイド石鹸ですから、其他あらゆる皮膚病の方が用ひてよろしく、又、皮膚病豫防の目的にて常用されれば美容と衞生の上から非常に喜ばしい効果をもたらします。
1ケ20セン
三共株式會社代理店
西村屋藥局
平市本町二丁目　電話三番

銃後の皆樣喜んで御使用になる
糸イラズ
綿布、綿糸、[illegible]の折柄古き破れた足袋、靴下、メリヤス、ジヤケツ其他何品に依らず活かして御使用出來ますから一家の經濟は勿論ひいては國家の經濟は莫大のものとなりませう
男子の方や御子樣方でも容易に修繕が出來ます
糸や針がなくても立派に仕上りますから此の非常時の場合是非一家に一個御揃へ御使用下さい
定價　20錢　30錢
平市古鍛冶町一〇
阿康藥局
電話四四番
振替東京三〇〇六五番